

## 北杜市立中学校適正規模検討に係る地域説明会の主なご意見・ご質問について

### (1) 検討の前提について

地 域	意 見 ・ 質 問	現 状
以前の審議会・計画のその後の状況について		
高根 白州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそもなぜ、適正化を検討しているのか。</li> <li>・4校案は難しいとなったとのことだが、何をもちて難しいということになったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が進み、集団規模が小さくなると、教員の配置数が減るため、学校指導の難しさという問題が出てくるため。</li> <li>・平成19年に立ち上がった審議会は、11回の審議会を経たのち、平成21年に答申を行っている。</li> <li>・答申を踏まえて、教育委員会は、平成22年5月に、北杜市立小中学校適正配置実施計画（8校を4校にする計画）を策定し、計画の実現を、慎重に検討したが、様々な意見があり、合意形成が困難であったため、難しいという結論に至った。</li> </ul>
小学校との関係性について		
明野 大泉 白州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の適正規模を検討ということだが、小学校と中学校はセットで考える方が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域で行う説明会で、住民の声を聞きながら、審議会での議論を進めていきたい。</li> </ul>
北杜市が目指す教育の将来像について		
明野 高根 大泉 白州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにどのような教育を施したらいいのか、そのためにはどのくらいの規模が適正なのかを議論することが大切。</li> <li>・原っぱ教育の具体的な内容や方向性を示して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原っぱ教育という特色ある学校づくりを目指している。</li> </ul>
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の生徒には、こういう勉強をして欲しいから、こういう風に教員を配置する、となるべき。</li> </ul>	
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スローガンだけではなく、北杜市の公立校にいれば素晴らしいことがあると思ってもらえるようなプログラムを考えて欲しい。</li> </ul>	
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領が導入されていく。これからの教育の方向性も資料として示すべき。</li> </ul>	

検討の進め方について		
長坂	・統合の方向性は決まっているのか。	・まだ具体的なことは何も決まっていない。
武川	・適正規模等審議会の話し合いはどこまで進んでいるのか。	・審議会は、これまで2回行っている。8月の審議会では状況説明、12月の審議会では地域説明会の進め方について話をした。 ・具体的な統合に関する議題はない。
明野	・どのようなスタンスで検討を進めるのか。	・地元の声をしっかりと聞きながら、審議会での議論を進めていく。
武川	・どのような手続きで、統合する・しないが決まっていくのか。	・小学校に関しては、住民の皆さまの意見を聞き、検討し、統合へと向かっていった。審議会・教育委員会で議論を重ね、地区説明会を再度開くなどして進めていった。
大泉	・市全体で一律に考えるのか、地域ごとに変えるのか。	・審議会での議論で進めていく。
明野 小淵沢 武川	・今後のスケジュールは決まっているのか。	・今年度は8地区で説明会を行う。 ・来年度は、審議会と並行しながら、各地区でワークショップを設ける予定である。
意見を聞く対象者について		
須玉 長坂 大泉 白州 武川	・現在、子どもが保育園や小学校に通っている保護者の意見も聞くべき。 ・現在の小中学生にも意見を聞くべき。 ・小さい子がいる家庭は、子どもを連れて来てもよい場であれば、参加しやすい。	・保育園や小学校に通っている保護者の意見を聞く方法を検討していく。

## (2) 学校規模について

地 域	意 見 ・ 質 問	現 状
学校の規模について		
須玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これだけ人数が減ってきているのだから、統合しなければならない。前回の須玉と明野が統合する構想は問題なかったのではないか。</li> <li>・令和13年の生徒数を見て、とても驚いた。統合するかどうかを意見交換する段階は、もう終わっているのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速やかな統合にむけての検討が求められている。</li> </ul>
高根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭では、1学年3学級ある方が楽しく取り組めるように思った。自分が中学生の時は、30人程度の学級が、1学年4クラスあった。それくらいの規模がいいのではないかと考えている。</li> <li>・移住者である。自身の中学生時代は、7クラスあり、同じ学年でも知らない人がいた。色々な人との人間関係から、学べることが多いと思う。地域の中にずっといると、変わり映えしない生活になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合に対して様々な反応がでることが予想される。</li> </ul>
大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年1学級の良さを、泉に来て感じている。学年の垣根を越えて、仲の良い友人ができることはとても魅力的だと思う。</li> <li>・泉中学校では、保育園から、ずっと一緒に友だちに囲まれ、充実していた。しかし、高校に進学した後、自分のことを表現することが出来ず、友だちづくりができなくて苦労した。</li> </ul>	
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的には小規模校が普通だと思う。幅広い視野をもって、議論を深めていくべきである。</li> </ul>	
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模で考えれば、合併も考えなければいけないのかなとは思っている。通学の面で心配なこともある。子どもが育っていく過程では、少人数よりは、たくさんの人の中で育った方が良いのではないかと考えている。</li> </ul>	

学級（クラス）の規模について		
大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学級の人数はどのくらいが適正なのか。</li> <li>・自身も大学で教えているが、人数が違くと、教育効果は全然違う。人数が少ない方が、優位である。コールマン報告<sup>※1</sup>（アメリカの社会学者が政府の依頼を受けて実施した調査）によれば、学習効果を決定づける主要な要因というのは、教育課程や教材や教師の力量などはあまり関係がなく、学校に対する関心や教育環境に対する支配感というような生徒の感覚である。自分が教育環境に影響を与えることができる、自分の運命を自分で決定して切り拓いていくことができるということが大切であるとされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな学級、小さな学級を受け持ったことがあるが、少なすぎても多すぎても良くない。数学や英語の授業など、少ない方がいいところもある。（泉中学校）</li> </ul>
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このままの状態です少数学級が増えると、負担が増えるだけだ。オンラインで繋げて1つのクラスとして授業を進めるなど、新たな教育スタイルを検討していくことも必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会での議論を進めていく。</li> </ul>
教員配置について		
高根 小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員配置の制度を把握しないと、適正規模の意見を出しにくい。</li> <li>・教員配置は、北杜市独自で変えることはできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の数が少なくなると、配置される教員の数も少なくなるため、全ての科目の教員が配置されないなどの状況が生まれる。</li> <li>・教員配置は、全国的には40人学級であるが、山梨県においては35人学級も認められていて基準が緩和されている。免許外教員をなくすために配置をしたり、少数学級を手厚く指導したりするため、市でも補助教員を付けている状況である。</li> </ul>
長坂 大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級数がある程度ないと、教員の配置数が少なくなる。そうなってしまうと、生徒達に不利益が出る。</li> </ul>	
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校でもきめ細やかな対応をしているという理解でよいのか。</li> </ul>	
県の動きについて		
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県では、少人数（25人）学級を推進している様子だが、実際のところはどうか。財政的な補助が増えるということがあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県の少人数教育推進検討委員会報告書によれば、25人学級の導入は、小学校1年生から始め、その後2～4年生を中心に拡張することが想定されている。</li> </ul>

※1 アメリカ合衆国の連邦教育局が1966年に実施した教育機会均等の実態についての調査報告。調査の責任者であった社会学者 James Coleman にちなんでコールマンレポートと通称されている。

### (3) 部活動について

地域	意見・質問	現 状
<b>部活動の種類</b>		
須玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 理事会で部活動のことを話し合った。両親が働いていて、生徒が帰宅後にゲームをして過ごしている状況よりは、全員入部という形にするのが良いと思っている。部活の選択肢を広げてあげたい。</li> <li>・明野小学校サッカー部に長男がいたが、クラブチームに通うか、須玉中学校に進んで部活動をやるか選択しなければならなかった。</li> <li>・スポーツ少年団で、バスケットボールに入っていたが、中学生で続けられないというのが現状だ。改善できるなら、どんどん進めて欲しい。</li> </ul>	
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何人以下で廃部」などの決まりはあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何人以下で廃部」という決まりはないが、1つの部に対して、複数の顧問が必要だと考えている。(小淵沢中学校)</li> </ul>
<b>チームの編成</b>		
須玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式戦は、他の中学校との合同チームで出ているという現状だ。</li> </ul>	
高根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがサッカー部に入っていたが、部員数が少ないため、同学年でチームが作れないという状況だった。現在は合同チームでやっているようだが、同じ学年でチームを作ってあげて欲しい。</li> </ul>	
大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長女はバスケットをやっている、息子はサッカーをしているが、サッカー部があるかないかで学校を選ぶことになるように思う。子どもがやりたいと思う活動ができる中学校であって欲しい</li> </ul>	
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ中学で大会に出たりすることが大事。</li> </ul>	
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の問題に関しては、北杜市で工夫して上手く行う方法がないのか。</li> </ul>	
<b>部活時間の確保</b>		
小淵沢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬になると部活の時間が少なくなる。統合したら、家まで遠くなって、部活動に参加できなくなるのではないか。子どもが、自分で歩いて行き帰りができる範囲に学校があった方がよいのではないか。</li> </ul>	

## (4) 地域とのつながりについて

地 域	意 見 ・ 質 問	現 状
大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の統合は、教育の問題でもあり、まちづくりの話でもある。人口の減少を抑制していくためには、子育てを安心してできる環境が整っていないなければならない。</li> <li>・大泉地区では、平成20年度時点での生徒数の将来予測が改善されている。移住者に、ヒントがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は避難所としての機能や、グラウンドを使っでの活動がある。</li> </ul>
白州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、住民の心のよりどころになるところだ。どういう風に学校を守っていけばいいかを議論すべきだ。どの地域にとっても、学校があるかないかでは全然違う。</li> <li>・白州に住む子どもを持つ親として、旧白州町に学校を残してもらいたい。</li> </ul>	
長坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県の佐久などにイエナプラン教育で移住者が増えたという例がある。北杜市の教育もすごく良いため、教育改革になってしまうかも知れないが、県外からの移住者を呼ぶチャンスとなりえる。</li> </ul>	
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が地域からなくなると、その地域に子どもが少なくなるという話を聞く。北杜市は、どういう地域デザインを考えているのか。学校がなくなったエリアは、どのような地域づくりをしていくのか。</li> </ul>	
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北杜市の教育の学校目標の1つに「地域に根ざした信頼される学校づくり」がある。私たちにとって、地域というのは武川のことを指す。小学校も、中学校も残して欲しい。</li> <li>・小規模校だからできる、子どもが地域の目に守られながら育ち、元気な姿に地域の人たちが励まされるという、関係がある。</li> </ul>	

(5) その他

地域	意見・質問	現 状
人間関係について		
白州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が少ないことで、子ども同士の関係に閉塞感を感じるという部分があるように感じている。</li> </ul>	
須玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年前に東京から移住してきた。学校の環境が1学年1クラスということ把握しないまま、転居してきた。人数が少ないため、人間関係が出来上がっている中に、どのように入っていけばいいか悩んだ。</li> </ul>	
施設の維持・管理について		
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化については、統合するにしても、しないにしても、改修を行う方向でよいのか。長寿命化改修をした場合、どれくらい耐用年数期間とその金額についての数字はどうなっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を建ててから40～50年間使ったら、取り壊して新しく建て替えるのがこれまでの通例であったが、中学施設中長期保全化計画では80年間使う方針をとっている。40～50年間使ってから建て直すと、243億円かかるという計算になる。寿命を80年まで延ばすと、201億円かかるという試算となっている。</li> </ul>
高根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物が古くなっている。既存の校舎を建て替えるのに使うのではなく、良い場所を1つ選んで、北杜市中学校1つ作ればよいのでは。</li> </ul>	
統合による変化への対応について		
明野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合するということになったら、部活動の帰りが遅くなるかと思う。バス通学のようなかたちになるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順を追って検討していくことが求められる。</li> </ul>
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通う学校が遠くなると、送り迎えの時間がかかる、放課後の時間がない、地域の方々と触れ合う時間がない、ということになるのでは。</li> </ul>	
大泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北杜市には、不登校の生徒をサポートする施設があるが、不登校になってしまう前のサポートが重要。大規模校であればある程、目が行き届かなくなる。</li> </ul>	
武川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の避難所としての役割に、去年の台風災害の時、助けられた。統合を進めた場合、閉校になった後の校舎が避難所として維持されるのか。</li> </ul>	